

北方出身  
の俳人

# 伊福丹助をしのぶ

延岡

4/14 荒平公園 ひえい俳句会が句碑祭



延岡市北方出身  
の俳人、伊福丹助を  
しのぶ「丹助句碑祭」  
が12日、同町の荒平  
公園内の句碑前で  
あった。ひえい俳句  
会（柳田幸男会長）  
の会員らが自作の句  
をささげ、丹助の魅  
力を再確認した。

句碑に酒と花をさ  
さげた後、会員らが自  
作の句を披露。このう  
ち、昭和58年の句碑建  
立当初から在籍してい  
る甲斐正行さん（93）  
は、丹助の恋の句にち  
なんで、「麦笛を吹きて  
来ぬ人待ちしとや」と  
詠んだ。

ひえい俳句会の会  
員らが花をささげ  
た丹助句碑祭（12  
日、延岡市北方町  
の荒平公園）

丹助は大正11年生ま  
れ。終戦後、結核にか  
かり、川南療養所に入  
所してから俳句を始  
め、患者同士で「うつ  
ら俳句会」を結成。献  
身的に世話をした。13  
年間の闘病生活中に全  
国の俳壇に投句し、賞  
を受けた。療養所の職  
員や患者らが援助し、  
昭和35年に句集「転命」  
が出版された。



## コノハナロード市民応援隊

# 賛助会員制度を新設

延岡

延岡市の市民グループ「コノハナロード市民応援隊」(松田庄司代表、89人は12日、同市大賣町のかわまち交流館で平成30年度総会を開いた。約50人が出席し、賛助会員制度の新設を含む今年度事

業と予算を決めた。同応援隊は発足3年目。同市野地町の五ヶ瀬川右岸堤防(愛称コノハナロード)で河津桜と菜の花の名所づくり、四季を通じて楽しめる憩いの場づくりをしている。応援隊の母体で河津桜を植えた「天下第一ひむか桜の会」(同代表が先日、みどりの愛護功労で国土交通大臣表彰に決まったこと

から、松田代表は「皆さんの日ごろの努力が形になった。この2年で堤防全体が見違えるようにきれいになった」と感謝し、「これから暑くなるが、今年もまた力を合わせていろいろなプロジェクトに取り組んでいこう」と呼び掛けた。

賛助会員制度は、「体力の関係で作業はできないが、何らかの形で支援したい」という声が多かったため新設した。会費は年間10千円。事業の基本方針は昨年度と変わらず、河津桜の世話、菜の花やコトンの植栽、アサギマダラの道の駅づくり、バラ、彼岸花プロジェクトなどに取り組む。並行して、今後10年間の長期計画を作成し、NPO化について研究する。

また、顧問の谷平興二さんの発案で、ひむか桜の会や応援隊のこれまでの活動を記した石碑を建てることと、賛助会員も気軽に参加できる花見のイベントを開くことも決めた。

コノハナロード市民  
応援隊の総会で、あい  
さつする松田代表  
(右)